



会長 道尻 誠助 青少年奉仕 正部家光彦
副会長 小井田和哉 幹事 紺野 広
クラブ奉仕 会長エレクト 小井田和哉 会計 峯 正一
職業奉仕 石橋 信雄 会場監督 村上 壽治
社会奉仕 川村 幸雄 直前会長 佐々木泰宏
国際奉仕 築館 智大 副幹事 深澤 隆
会計補佐 渡辺 孝

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 広瀬 知明 同副委員長 福井 哲郎
同委員 奈良 全洋

国際ロータリーのテーマ — 2020～21 — 八戸ロータリークラブのテーマ

ロータリーは機会の扉を開く

来週も会おう!!

国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク

八戸ロータリークラブ会長 道尻 誠助

4 月 は 母 子 の 健 康 月 間 で す

第3183回例会 2021.4.7

▶ ゲスト

名誉会員 八戸市長 小林 眞さん

会長要件 道尻 誠助 会長

今朝、通勤途中に工業地帯の煙突から煙がもくもくと出ているのを見て、非常にエネルギーを感じました。生きていることを実感し、光景がまばゆい感じでした。命といえば、赤澤会員が重油を頭に塗ったけれど髪が生えなかったという話をされましたが、その後の卓話で赤澤さんが土を食べる話をされました。いろいろ調べましたら、人間で土を食べる方はなかなかいらっしゃらないですが、ミミズが土を食べるということです。

植物、動物にとって一番大事なものは酸素と水、光。ベスト10があるとすれば、私は土も入っていると思います。土がなければ植物も育たないし、植物を食べている動物も、また動物を食べている動物も生きられない。命の元は植物になるわけです。火山が爆発した後の荒れ地を耕したのは実はミミズということが分かり、非常に驚きました。赤澤さんの祖先が恐らくミミズだったのでは(笑)。

ただ人間の起源は500～700万年前ですが、ミミズは4億6,000万年前から氷河期も乗り越えてきました。人間が頭を下げなければならぬとしたら、恐らくミミズではないでしょうか。食事のときにミミズのお陰だなと感じてもらえればと思い紹介しました。

○2019～20年度地区表彰の伝達

奉仕活動優秀ロータリアン 道尻誠助さん
100%出席連続無欠勤20年 松橋道治さん
=写真左=

ロータリー財団新ポールハリスフェロー
地代所久恭さん
米山記念奨学会新米山功労者 吉田誠夫さん



幹事報告 紺野 広 幹事

○コロナ入院は市民病院7名、当院7名、宿泊療養施設21室。1回クラスターが出ると、だいたい市のキャパシティの3割くらいを占める状況です。引き続きご注意ください。

○本日、「奉仕の理想」を歌いました。この他にロータリーソングは三つ、「それでこそロータリー」「手に手つないで」「我らの生業」があります。この4曲は1977～78年度の第23代会長の故吉田昌平さんが第43代会長の故赤田琢さんの時代に揮ごうしたものです。23年が経過し表装のほつれが見られ、保存の声が上がっていました。理事会の承認を得て、新たに掛け軸を四つ作成しました。今日から古い掛け軸をそれぞれ1回ずつ最後のお披露目をして、それ以降は新しい掛け軸を使用します。

委員会報告

親睦・会場委員会 岡崎孝文委員長

○ニコニコボックスの報告

- ・会員誕生祝 熊谷清一・工藤義隆
瀬瀬知明・松橋道治さん

小林 眞さん ニコニコデー

熊谷清一・松橋道治さん (会員誕生日)

夏川戸 齊さん すっかり忘れていました。

(結婚記念日)

道尻誠助・小井田和哉 } 小林市長、本日の
石橋信雄・赤澤栄治 } 卓話よろしくお願
奈良全洋・峯 正一さん } いします。

石橋敏文さん 今日孫1人が小学校に入学しました。来年は2人ですのでランドセル代が大変になりそうです。

種市良意さん デーリー東北さんの「続・きたおう人物伝」にひいじいさんが載りました。

山田慶次・渡辺 孝さん ニコニコデー

水曜会 松本剛典幹事長

本日、水曜会メンバーのレターボックスに今年度の年会費の納入お願い書とオフィシャ

ルハンディ申告のお願い、今年度年間スケジュール表を入れさせていただきましたので、よろしくお願ひします。

深澤 隆副幹事

本日、Bテーブルは全員出席です。



「八戸市美術館について」

八戸市長 小林 眞さん



今日は八戸市美術館についてご説明申し上げる機会を頂き、本当にありがとうございます。外構整備が終って11月にオープン予定です。テーマは三つ、八戸の文化政策の流れと八戸市新美術館整備の経緯、新美術館の特徴についてお話しさせていただきます。

私が市長に就任したのは平成17年。マニフェストには文化政策について多文化都市八戸市推進会議の設置を掲げました。平成21年に2期目を迎えた際のマニフェストにはアートの街づくりと八戸ポータルミュージアムはっちを核とした街の演出を掲げ、南郷アートプロジェクト、八戸工場大学、まちぐみを展開しました。はっちは平成23年2月11日にオープン。年間平均で約90万人の方にお越しいただき、令和3年3月には延べ来館者数が8,888,888人に達しました。平成28年度に新美術館建設推進室を設置して新美術館整備に本格的に着手。同じ年に八戸ブックセンター、平成30年には八戸まちなか広場マチニワがオープンしました。多文化推進やアートのまちづくりをこれまで以上に推し進めるため、今年4月に文化創造推進課を新設しました。

旧八戸市美術館は昭和44年に建設された旧税務署の庁舎を用途変更して造られたもので、昭和61年に開館して以来、当市の文化芸術活動の振興に大きな役割を果たしてきました。郷土にゆかりのある作家を中心に約3,000点を超える作品を収蔵し、毎年国内外の優れた作品による企画展や収蔵作品のコレクション展、市民の作品発表の場としても活用されて

きました。ここ10年の平均で年間約35,000人の来館者があり、平成27年度は過去最多の48,000人以上の来館がありました。主な収蔵作品は洋画、日本画、書、彫刻、陶芸作品などで、特徴的な収蔵作品として教育版画の作品があります。ただ、施設の老朽化が進み、市民から新しい美術館整備を求める声が上がっていました。そして本市が進めるアートのまちづくりの中核施設として美術館機能の拡充が求められていました。

新美術館整備を中心街の活性化の観点から見てみます。戦後日本の大型店出店は基本的に規制緩和が進められ、小売店の大型化、立地の郊外化が進展し地方では中心市街地の衰退問題が顕著になりました。平成10年に大店立地法と改正都市計画法と中心市街地活性化法の「まちづくり三法」が制定されましたが、大型店のさらなる郊外立地が進んでしまった。こうした事態を受けて、平成18年に郊外部の開発規制を行い、都市機能を中心に市街地に誘導する都市計画法と中心市街地活性化法が改正されました。私が市長になったのはこの三法の改正の前年で、早速中心市街地活性化基本計画の策定に着手しました。本市の特徴としてはあえて商業再開発を当面見送ったこと。全国のうまくいっていない事例をたくさん見てきましたから。市民活動をどう支えるかを中心に計画作りに取り組み、はっちやマチニワ、ブックセンター、Y Sアリーナを整備しました。民間の動きも続き、現在は美術館整備と併せて八日町から美術館へ抜ける民間中心の再開発計画の動きが出ています。

新美術館は鉄骨造り地上3階建て、延べ床面積約4,844平方メートル、建物本棟の工事は約32億円です。建物の特徴は「学びの拠点ラーニングセンター」という概念を生かし、二つの特徴的な空間によって美術館における学びの循環を実現しようとするものです。新美術館の最も特徴的な空間であるジャイアントルームはエントランスとして広場のように誰でも自由に立ち寄ることができるほか、人々が学び活動する場として活用されます。ジャイアントルームでは学芸員が市民と一緒に展覧会

やアートプロジェクトの準備をしたり、アーティストが作品を制作していたり、プロジェクトを行っている過程を見ることがもできます。そしてより専門的に深く学べる場として、メインの展示室であるホワイトキューブや映像中心のブラックキューブ、収蔵作品を展示するコレクションラボ、スタジオなどがジャイアントルームを取り囲むように配置されています。八戸市美術館は直営です。指定管理的な委託も他の美術館ではあるのですが、あえて直営でやろうということで、学芸員も計画的に採用を続けてきました。

美術館のビジョンとして「種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館～出会いと学びのアートファーム」を掲げています。アートファームとはアートが有する特性を活用して、人々の心の中にある畑にさまざまな種を蒔いて成長を促す、そういう取り組みを50年、100年先の八戸市の姿を見据えながら、これから戦略的に進めていきたい。八戸の美に迫り、そこから得られた資産をもって八戸の人を育み、その効果を八戸の街に波及させていく。こうした八戸にこだわったミッションを果たすために、展示や調査研究、収集保存という美術館が担う基本的な役割に加え、人々が刺激しあいながら感性を高めて集まってくる、そういう場としての拠点性を持った美術館にしていきたいと思っています。また、旧美術館と同様、博物館法における博物館相当施設としての要件を備えた整備を目指しています。博物館法に位置づけられた美術館としては県内で最初の美術館になります。

新美術館では美術館と鑑賞者、専門員と一般の方という関係性をできるだけ取り払うような工夫をしていきます。市民、地域と共に作るという方針を積極的に推進していきたいと考えています。このため従来のボランティア制度に変え、美術館スタッフや専門家と一緒に「アートファーマー」と呼ばれる市民のスタッフを皆さんで形成していただきたい。アートファーマーは美術館が実施するプロジェクトへの参加、自ら企画立案したプロジェクトの実施など、それぞれの興味や関心

の度合いに応じて、アートを介して地域社会に関わるさまざまなプロジェクトを展開する活動など、アートを通して幸せに生きるという形になることを目指していければと思っています。

学校との連携事業にも力を入れていきます。美術館が学校の教育現場と密接に関わる事業を積極的に展開するため、学校の先生と学芸員と一緒に新しい美術館、美術教育の在り方を考え、実践する場である「学校連携ラボ」をジャイアントルーム内に設置したい。既に令和2年度から市内の小中学校の美術の先生と学芸員、専門家で構成するプロジェクトチームを立ち上げて、さまざまな活動を行っています。さらに、市内で特徴的な活動を展開されている大学や高校と連携した取り組みも新美術館の特徴の一つとなります。美術館内に学生や大学の先生などの活動拠点を設けて、中心街に学生を呼び込み、さまざまな形で街の活性化に結びつけるということを計画しています。八戸学院大学、八戸工業大学、八戸高専の3校と連携して、学校と学部、学科の枠を越えた取り組みを展開したいと考えています。

県内には個性的な美術館があります。昨年7月に青森県立美術館の杉本館長の呼びかけで「青森アートミュージアム5館連携協議会」が設立されました。5館が連携して青森のアートの魅力を国内外に発信して、県民や観光客の県内周遊を促進することを目指していきます。今後、5館連携トークイベントや共通ホームページなどでの情報発信など連携した取り組みを推進していきます。

八戸市新美術館は全国の美術館の中でもかなり先駆的な美術館になるだろうと思っています。全国の美術館関係者、アート関係者からかなり注目されている状況にあります。口

サンゼルス現代美術館や水戸芸術館など国内外の美術館の設計を数多く手掛けられた建築家の磯崎新氏は、美術館を三つの世代に分けています。第1世代はルブル美術館に代表されるような王侯貴族のコレクションを一般公開する目的で開かれた美術館。第2世代はニューヨーク近代美術館に代表されるような、どのような作品展示にも対応できる白い壁と稼働壁を備えた、コレクションだけでなくさまざまな展示を中心とする、いわゆるホワイトキューブと呼ばれる展示空間を持つ美術館。そして第3世代は十和田市現代美術館のような、その場でしか成立しない、半永久的に展示される作品と建築空間が一体となった美術館です。八戸市新美術館の館長に就任していただいた日本大学理工学部建築学科教授の佐藤慎也氏は「新美術館は第4世代の美術館になり得る。物としての美術がこととしての美術に変化していく、“ことづくり”の美術館。物としての作品に人の活動やまち、コミュニケーションなどの要素が含まれた作品を扱う、これまでにないタイプの全く新しい美術館になるだろう」と話されています。

オープニング展は新美術館のコンセプトを体現するような形で八戸三社大祭がテーマになります。多くの市民が参加する八戸最大の創造的な活動という視点でとらえ直して、山車と共通する題材が用いられる浮世絵、山車の造形美につながるような現代アートの作品展示。祭りを支える人々との関係性やコミュニティの在り方を可視化するアートプロジェクトの実施。あるいは三社大祭と関わりのある八戸の美術家が制作した収蔵作品の展示など多彩なプログラムを構成する企画を予定しています。

出席報告					寄付報告	
出席委員会					国際奉仕委員会	
第3183回例会（4月7日）			第3181回例会（3月24日）			4月7日現在
出席率		71.2%	出席率		57.9%	財団寄付額 ￥390,300
総会員数		60名	総会員数		60名	目標達成率 33.6%
出席義務会員		59名	出席義務会員		57名	寄付者数 21/62名
出席免除会員		1名	出席免除会員		3名	米山寄付額 ￥280,800
欠席数		17名	欠席数		21名	目標達成率 45.3%
						寄付者数 20/62名